

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム 笹の木

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392400040		
法人名	医療法人社団 真心会		
事業所名	グループホーム 笹の木		
所在地	〒029-5505 岩手県和賀郡西和賀町湯本30地割74番地8		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 4月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392400040&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23 年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム笹の木は 医療法人社団真心会を母体とし、西和賀町湯本地区に佐々木内科小児科医院、西和賀訪問看護ステーション、介護療養型医療施設、居宅介護支援事業所と共にあります。佐々木内科小児科医院においては 昭和21年開業 65年間、地域と共に歩んでまいりました。笹の木においても保育園や近所の方たちと気軽に声を掛け合い地域を巻き込んで介護サービスが行われています。窓を開けると和賀川の流れ、山の樹木、山菜、積雪など四季折々の自然を満喫できます。医療との連携もスムーズで利用者の体調変化に即、対応できます。スタッフ一同、介護に喜びとやりがいを感じ、認知症の方が安心して暮らせるもう一つの我が家を実感出来るよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、医療法人を母体とし運営にあたっては、町内の他法人の特別養護老人ホームや町立沢内病院等から助言やボランティアなどの支援を頂くなど、地域内の連携・協働体制が構築されている。またホームは、地域の一員として運動会や夢あかりなどの地域行事に積極的に参加するほか、ビアガーデンを開き地区民との交流を深めている。慶弔が実施されるときは、家族や親戚の協力により可能な限り利用者も参加できるよう支援している。なお、関わりの中での「気づき」を大切にしており、安眠のため「湯たんぽ」をそっと入れるなど、利用者一人ひとりにきめ細やかな気配りをしながら支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名：グループホーム 笹の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成22年度の運営方針として、・認知症高齢者の「心の痛みを緩和し」、「心を癒し」、「生活に満足出来る」、ように援助します。・混乱しないで普通の生活を送ることを優先に考える。・個々の「目標」の模索をする。として貼りだして職員間で共有して実践に繋げている。	ホームの理念を基に、職員全員で話し合い「安心、ゆったり、笑い」などをキーワードに「介護理念」をつくり、リビングに掲示してお互い確認し合いながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入しており、回覧板を回し、行事に参加、日常的に交流している。夏にはビアガーデンを主催し地区の方たちが沢山参加、手づくりの物を持ち寄ってくださった。	地域の一員としてお祭りや地区運動会への参加のほか、事業所が開いたビアガーデンには地域の方々が参加され交流を深めている。また町内で行われた「雪灯り」に利用者がソリに乗って参加する等楽しい思い出をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の行事に参加し、保護者の方たちの協力を仰ぎ、認知症のかたの理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の代表や役場の担当者、利用者家族等が出席し定期的に行われている。入所状況、行事、研修報告、災害対策等、報告、意見交換を行いサービス向上に活かしている。	ホームの活動報告や意見交換を通じてサービスの質の向上に繋げている。利用者が一人で散歩し心配した事例の話題が、委員の図らいで、町内会や保育園、商店の方々に支援の協力を求めた結果、地域の方々の見守りの目が沢山できて安心感に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の会議、研修に職員が交代で参加し、運営推進会議にも担当者に入って頂き、情報交換を行い連絡を密にしている。	介護・医療担当者は勿論のこと、生活保護受給利用者もいることから、各担当課・担当者とは、会議や日常業務を通じて積極的に情報交換が行われており緊密な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない宣言を継続し、利用者の安全を見守り支援している。日中の施錠はせず、夜間のみ鍵をかけている。	「見守り」を基本に対応している。身体は勿論、言葉による拘束もしないよう言葉使いに注意しながら支援している。2階の居室に移動する時は、安全のため利用者に付き添い、見守りしながら階段利用の支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	互いの介護において、言葉や態度による拘束や虐待に結びつけないように注意しあっている。書き出している項目について繰り返し読む機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度や任意後見人を活用されているかたがいるが、血縁の方との関係も継続している。個々の必要性については役場、振興局等、関係者と話し合い必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は契約書に添って時間をかけてゆっくりと説明し、疑問点を明らかにしている。解約時は以後の生活がスムーズに行えるよう連携をとっている。改定時も文書で説明を行いお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については普段の会話から意見や要望を引き出す、又ケアプラン作成時質問している。 家族については 毎月の総括の報告や手紙のやり取りから引き出し、運営推進会議や来訪の際意見を出してもらっている。	意見箱を設置しているが利用されないため、家族等から直接話を聞く環境づくりに努めている。家族からは毎月の報告や訪問時の機会を捉えて要望・意見を聞き、会議で検討しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、ミーティングで意見交換の場を設けている。その都度出た問題については管理者が聞き取り、必要があれば理事会で話し合い、意見を反映させている。	毎月のミーティングで意見交換をしている。日常の職員の思いや意見は管理者が受け止め、待遇改善や協力体制の充実など職場環境改善も含めて理事会に報告・話し合いながら運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金を利用し、職員の努力や実績に応じ給与の見直しを行ったり、研修参加や 人員の調整をして安心して働けるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の業についての研修に参加、事業所内でも講義を行っている。研修には出来るだけ参加出来るよう体制を整えている。又、全員が把握できるよう書面やミーティングで共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修で交換研修を行った。管理者はリーダー研修で交流の機会をもった。他施設からの訪問や見学の機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な方は事前に施設を見学していただく、ケアマネも自宅を訪問し本人の生活の状況の把握に努め、困っている事、不安な事、要望を理解しようとしている。職員と共有出来るよう書き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されるまでの経緯や御苦労について把握出来るよう電話や訪問の機会を作っている。入居後も頻回に面会して頂いたり、電話を掛け合ったりして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の関係機関や医療機関と連携を取りながら本人と家族の想いを見極め必要なサービスに結びつけた支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や手拭きたたみ洗濯ものたたみ、各自の居室の掃除を職員と利用者が一緒になり行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会に家族から手紙を書いてもらい、お礼に本人の元気な姿を印刷したハガキを本人の直筆で送った。行事の際は付き添ってもらえる方には声を掛け手伝ってもらっている。センター方式の記入やアンケートをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の仏様を拝みたい、兄弟の法事に出かけたい、昔働いていた職場に行ってみたい等一人一人の希望を引き出し出来る限り家族や周囲の方たちを巻き込みながら支援している。	[法事に参加したい]との希望に応じたり、昔の職場への訪問、近隣とお茶のみなど、親類・縁者、同僚・隣人などとの関係が途絶えないように支援している。また、日常的に近所の方がお菓子持参で訪問したり、保育園児が散歩途中に立ち寄りしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が声を掛け合い互いの居室で過ごしたり、エレベーターで移動したり、作業を一緒に行ったりしている場面を大切にしている。職員が間に立って関係をスムーズにしている場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会をし、本人の相談にのり、現在のサービス関係者に伝えたり、現在の状況を聞いたりして 関係を断ち切らないよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち制で、職員全員が一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を把握するため1ヶ月毎総括として書き出している。	担当制を導入し、日常的に利用者の意向や思いを把握している。今年度は利用者の子供や兄弟に「わたしの暮らしシート」を渡し記入してもらいこれまで気付かなかったことを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式・暮らし方シートを活用し、過去の暮らしについては家族にお願いしたり、家族に頼めない方は入居前の事業者をお願いした事もある。出来るだけ自宅訪問を行うように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表は24時間シートにして毎月総括、ミーティングの際に検討し一人一人の現状に合わせた内容にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は受け持ちの書く総括を基に話し合い、家族や関係者と話し合い、現状を踏まえたいうで作成している。	担当制を取っているが、職員から出された様々な意見を基に介護計画を作成し、利用者・家族に説明し同意を得ている。また3ヶ月毎のモニタリングを実施し計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表に日々の様子やケアの内容や工夫を記録、ケアカンファレンスを行った場合は業務日誌に書いて申し送りの際見落とす事がないように工夫している。その内容が介護計画とびつくように見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の思いに添って専門医への通院、買い物、見舞いや法要への外出支援時には知人や家族を巻き込みながらとりくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や紙芝居のボランティアを月1回お願いしている。保育園の行事や他の施設の行事に参加させてもらったり、スーパーでの買い物の際は声掛けをお願いし、暮らしを楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医になっている。訪問診察に週1回きていただいている。通院時は家族が同行することになっているが、必要に応じて職員が対応することもある。	かかりつけ医は、本人・家族希望としている。皮膚科、認知症等の専門医への通院は原則家族同行としているが職員が対応することもある。日々の健康管理は医師である開設者が週1回訪問診療しており適切な医療受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報交換されており、報告、連絡、相談の連携を心がけ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は同行し介護サマリーを提出している。入院中も面会や電話で状況を把握している。母体の医院だけでなく、他の病院関係者とも会議等を通じて関係作りにつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看とりの指針は全員から同意をいただき、看とり後の支援についても家族の意向について書き出しをお願いしている。	昨年度「重度化及び看取り指針」を作成し家族に説明し同意を得ている。今後の具体的な対応の在り方については、家族の意向を踏まえ対応したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が常勤していることから一人一人のリスクマネジメントを踏まえて緊急時の体位の取り方、連絡の仕方、チームワークについて話し合いや、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の直通電話を設置、スプリンクラーの設置を行った。各災害に対するマニュアルもあり、地域住民との交流を深め、協力体制を築いている。	今年度スプリンクラーを整備したほか、消防署との直通電話を設置し緊急対応に備えている。なお、避難訓練を実施しているほか、夜間等の緊急事態に備えて合鍵を近所に預けている。	居室が2階で、職員の少ない夜間や豪雪時の災害への対応が心配される。消防署や隣家などの協力を得て、夜間想定等の避難訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時はノックをして、声掛けするように心がけている。態度や言葉による拘束や虐待にならない様に対応している。	利用者への声かけは「さん」づけで呼び合っている。特に、排泄誘導や入浴時は言葉づかいに気を配っている。プライバシー保護等の文書を職員に配布しお互い注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に関わる表現や表情を大切に受け止め、現実となるよう努力している。行事等の参加や一日の過ごし方についても出来るだけ本人の意向を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のほとんどを居室で過ごす方、自分の役割を大切に過ごされる方、手を動かしていると落ち着かれる方、一人一人が安心して過ごされるペースを職員が理解し希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と美容院に行く方、希望の時に来てもらっている方、他の方と並んでカットしてもらおうと安心な方等工夫しています。毎年5月には化粧ボランティアで変身。毎日の更衣については本人が選んで着たり、職員と一緒に考えたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやにがてな物を考慮している。職員と一緒に準備や盛り付け、後片付けをおこなっている。食事の声掛けも楽しく食べられるようにし、行事の際は説明やいわれ等話している。(教えてもらっている)	献立に利用者と共に作った「しみ大根」や季節の野菜等を適宜とり入れたり、行事食では利用者の思い出で話を引き出す配慮をし、又、食器には、デザイン・色彩など目でも楽しめるものを利用するなど、五感を活かした食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や飲み込みの力に応じて形態を工夫しているが、食欲が落ちないよう見せる工夫もしている 食事や水分量の確保が難しい方には補助栄養飲料を併用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のブラッシングや義歯洗浄を行っている。歯科医師の指示で蝕が多い方については仕上げ磨きを行っている。希望によってかかりつけ医の訪問歯科で口腔ケア指導、定期健診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつの使用に頼らず可能な限り布パンツを使用している。おむつを使用している方でもトイレ誘導を行っている。	食事前後のトイレ誘導など、利用者一人ひとりのチェック表を参考にトイレ誘導を行いオムツに頼らない排泄支援に努めている。極力、リハビリパンツに頼らないよう自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れている。水分摂取を促している。乳酸菌飲料をとることでスムーズに出る方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至にはゆず湯、入浴剤で保湿をしている。時間帯も状況にあわせて対応している。音楽の好きな方には好みの音楽を流したり、歌を歌ったりして楽しんでいただけるよう支援している。	入浴についての時間帯や回数について検討したが利用者が心地よく入れる環境等が重要であるとし、BGMを流したり歌を歌ったりと気分良く入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促しているが 希望に添って居室で休んで頂いたり、座敷で休んで頂いたりしている。夜間のトイレ誘導や体位交換は入眠状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を管理し薬の説明書を見て用法、用量副作用を理解している。処方変更時は連絡帳に記載し申し送っている。薬は一日分を薬箱に小分けし名前、日付を確認しながら服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歳を重ねる度に作業は難しくなっているが食事の盛り付け、皿拭き布きん畳み等役割を持って過ごされている。お茶会を開いたり、一人ひとりの誕生会を祝ったり、行事の際はアルコールをたしなんだり楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や希望、天候等を見ながら全員が散歩や外出出来るよう支援している。家族や地域の方たちの協力を得ながら結婚式、法要に出かけたり、他の施設の盆踊りや行事に参加している。	天候と体調を考慮し、風・草・木の香りや変化など外の空気にふれて気分転換できるように努めている。冬期間以外はほぼ毎日散歩に出かけている。仏壇を拝むため自宅訪問したり入院先の夫のお見舞いに出掛けたりと一人ひとりの状況に対応できるように家族や近親者の協力も得ながらきめ細やかに支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は ほぼ全員が手持ちしている。本人が管理出来ない場合、家族に報告する形で預かっている。スーパーなどでお金を支払う時は 本人の手から支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日、家族とナイトコールをすることで安心される方がいる。携帯電話で家族と会話されている方もいる。ダイヤルは小さいので職員がかけて渡している。手紙やはがき、荷物が届いた時は必ず返事が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルの上に飾ったり、行事にあわせて飾り付けを行っている。洋風、オール電化で一階は公共スペース、二階は居室スペースとなっている。畳で休むコーナーもあり横になられる方もある。	花好きな利用者のために建物内に花をたくさん飾り華やかにしている。手作りの壁掛けのお雛様や桃の花が飾られているなど季節を実感できる工夫がされている。浴室は淡いピンクの色彩で癒しの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に居室とリビングを移動され、畳の談話室で休まれたり、廊下やリビングの椅子に座ってお話しされたり、それぞれに過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃や整理は利用者の力に応じて職員が支援している。馴染みの物を家族や本人と相談しながら安心出来るように配置している。	ベッドとクローゼットが備え付けてあるが、テレビや位牌等を持って来ており、自分の生活の場として使いやすい居室空間をつくっている。また就寝方法もベット利用あるは畳利用など、それぞれ状況に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの入りに札を掛けわかりやすくしている。廊下の途中には椅子を置いて一休み出来るようにしている。車椅子、シルバーカーの歩行補助具を備えている。		